YAMATO Nature Circle
ヤマト自然倶楽部 ―ヤマトネイチャーサークル― 2022/1 vol.124

「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。
さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.59

絵と文 群馬直美

裏側の世界《チャノキ》

ビオトープ園のチャノキに、今年もまた花が咲いた。
チャの花は葉っぱの付け根にうつむいて咲くので、よく見えない。どうやって描いたらいいのだろう？
と10年以上も思案に暮れていたのだけれど、今日やっとひらめいた。
「そうだ！　下から見上げて描けばいい」。
つぼみの付いた枝をアトリエに持ち帰ると、2日後に開花した。
ちょこんとお辞儀をするようにして花を見上げると、和菓子のようで美味しそう。
14枚付いた葉っぱの裏側がやさしい陰影を落とし、私を招き入れる。
……ようこそ、チャの世界へ。
チャの葉っぱは深い緑色をしていて光沢がある。
裏側は淡い緑色なのだけれど、下からのぞき込むと薄暗く、所々暗闇のよう。
シャープペンシルで下書きをして、明るい緑から暗い緑まで8段階の緑色を作り、明るい色から置いていく。
少しずつ濃くしていくのだが、陰影を追って暗くしていくと、どうしても葉っぱの表側の色になってしまう。
暗くしたり明るくしたりを何度も繰り返しながら、裏側のやさしい陰影の世界に近づけていく。
――これは手強い！　私は描ききることができるのだろうか？
さらに葉っぱ1枚1枚見ていくと、黒い小さな付着物がたくさん付いているではないか。
大きいの小いさいの、いろいろ。
そのほかクモの糸、虫の卵、羽毛、枝にはビニールひもの細くちぎれたのが糸くずのように絡み付いていたり……。
絵筆を進めていると、そういったものたちが美しく輝き、私に何かを訴えかけてくる。
あぁ、急いで描くのはやめよう。
1つ1つ充分味わいながら描いてほしい、と葉っぱの裏側の世界が叫んでいる。
世界中にチャノキは無数にあるけれど、今、私の目の前にあるこのチャの枝は、
一生にただ一度、私が出会った枝なのだから。
この出会いを噛みしめよう。
こういった諸々の思いが、今描いているチャの絵に命を吹き込むことになる。
というわけで、今回は《未完成の完成》での発表になった。
1年後のチャの花が咲く頃に、この絵の完成版をお見せしたい。おたのしみに～

表紙の絵 「チャノキ」（未完成）

天辺の左側の葉と花はほぼ完成。他はこれから描き込む。

- 紙（ファブリアーノ エキストラホワイト極細目）/テンペラ
- size:410mm×320mm
- 制作期間：2021.11.19～12.1
- ヤマトビオトープ園にて 10.21採集
- アトリエにて 10.23開花

© Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール
高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、"葉っぱ"をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神ーこの世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』他。
東京都立川市在住。 https://www.wood.jp/konoha/

建設プロダクト ヤマト
株式会社ヤマト　総務部広報室
2022年1月発行
〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896
ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp